

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 1 年 9 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492300029		
法人名	社会福祉法人 広島友愛福祉会		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	広島県大竹市松ヶ原町854-1 (電話) 0827-57-7288		
自己評価作成日	令和1年8月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3492300029-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3492300029-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 1 年 9 月 2 4 日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ふきのとうの、理念「私たちは 笑顔 を 大切にします」を、入居者様、職員共に                  笑顔 を、日々忘れず毎日楽しく過ごしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームふきのとうは、地域密着型サービスである事を重視しており、日頃から、定期的な散歩、利用者と地域でとれた野菜の販売所「わくわくファーム」に買い出しに出かけたり、自然と地域に溶け込むよう努めている。又、町内会の方々にも運営推進会議に参加を働きかける等している。利用者は、昼食の準備で惣菜を盛り付け、食後は皿拭き、午後には洗濯物を畳む等、利用者お一人おひとりのペースで家事を受けもっている等、笑顔の多い家庭的な生活環境が提供されている。体を動かす事が難しい利用者には、味見をしてもらい意見を聞く等して、家事に参加し誰もが役割を持つように支援を行っている。利用者の言葉に加え、表情や動きから何をしたいのかを察知し、出来るだけ利用者が主体的に出来る支援を心がけている。利用者がホームの中で役割や存在感を持って安心して生活し、出来る事を維持・継続出来る支援に努めている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「私たちは笑顔を大切にします」を理念に掲げフロアに掲示して、みんなが笑顔で暮らせるようにサービスの提供を行っています。	事業所理念「私たちは笑顔を大切にします」を施設内に掲示し、職員間で申し送り、又は、ミーティング等の時間を利用し、日々のケア場面において、常に意識しているかを話し合い、共有・実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入会し、総会出席や回覧版などで地域の様子を把握している。盆踊り、敬老会などの行事に参加させていただき、地域の方も大変親切に受け入れてくださっている。毎週水曜日は近くの「わくわくファーム」で野菜・米を購入している。	事業所は自治会に加入しており、総会出席や草刈りに出たり、回覧板で地域の様子を把握したり、盆踊り・敬老会等、地域の行事に参加し交流している。大竹高校の学生の訪問やボランティアの訪問で、フラダンス・コーラス等があり、地域と交流している。又、地域防災訓練に利用者・職員が参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方や包括支援センター、病院の相談員の方からの相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を行い、ご家族・自治会長・民生委員 包括支援・市役所地域介護課の方に参加いただき、ホーム内の様子や行事、事故防止について話し合いを行い、意見をいただきサービスに反映している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員・大竹市地域介護課・介護高齢者係係長・自治会長・民生委員・家族・大竹市認知症家族の会代表・施設長・事務長・訪問介護・管理者・職員が参加し、行事報告や利用者の状況、研修報告、避難訓練・防災について、身体拘束の状況について等を報告し、話し合いや情報を交換し、そこでの意見を検討して、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へ出席いただいている。また市役所で行う研修等に参加して、情報交換をしている。介護保険の更新の手続きの代行も行い、ご家族様より大変喜ばれている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、出向いて相談して助言を得たり、情報交換をする等で、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、利用者状況等について情報交換をしている他、身体拘束適正化検討委員会出席時に話し合い、情報交換をしている等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修に参加し、職員全員が周知している。身体拘束についての取り組みをホール内に掲示している。2019年4月より運営推進会議にて「身体拘束等適正化委員会」を開催し協議している。	身体拘束適正化検討委員会を設置し「身体拘束をしないケアの指針」を作成し、2ヶ月毎に運営推進会議時に開催し、話し合いをしている。内部研修で身体拘束について学び、職員は抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。、身体拘束ゼロの意義、尊厳を大切にされた対応を意識している。スピーチロックについても、職員同士で注意し合い、利用者への対応や言葉遣いにも、気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員全員が施設内の研修に参加している。不適切な言葉掛けなどは職員同士でも注意しあえる関係を築き、防止に努めている。虐待防止の取り組みを施設内に掲示している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内で権利擁護研修を毎年実施しており、職員が参加している。全国認知症グループホーム協会の「認知症グループホームサービスの権利擁護、虐待防止コンプライアンスルール」を全職員に周知・実践している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は必ずホーム長または管理者が本人及びご家族に丁寧に説明し理解をいただいている。疑問や不安点はその都度わかりやすく応答し説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族等からのご意見・ご要望は面会時等に言われることが多い。ご家族とスタッフとの間で話しやすい関係を築くよう努めており、そんな雰囲気になっている。	契約時に、相談苦情受付体制、第三者委員、処理手続き等を、重要事項説明書に基づいて、本人や家族に説明している。家族から相談や要望、苦情があった時には書面にし、管理者に報告している。職員全員で共有し、必要な場合は、会議で話し合っている。家族からは、面会時や運営推進会議時に聞いたり、利用者からは、日々の会話の中で、思っている事や意見、不満を汲み取る事が出来るよう意識している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2か月に1回ミーティングを開き、職員の意見を集め検討を行っている。 また、必要であれば随時意見や案を聞き出して、反映している。	管理者は、2ヶ月に1回のミーティングや勉強会、朝の申し送り時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。それらの意見を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	2019年1月より法人全体で人事評価制度を開始し個人のがんばり、チームのがんばりが評価につながるよう努めている。また、休日管理では個人の予定や希望の休日ができるだけ反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修はなるべく出席できるよう配慮しているが、法人外の研修はなかなか参加できていない。更に研修を受ける機会の確保に努めたい。資格取得も動めているが昨年は受験者がいなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ホーム長が「大竹市介護支援専門員連絡協議会」の理事として同業者を共同した。また、「大竹市多職種連携協議会」の会員交流会や研修にも毎回参加し大竹市の福祉の発展に努めている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居される前から面談を行い、ご本人の様子から困っていること、不安などをしっかり把握し、安心して早くなじんでいたような笑顔で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居される前に本人・ご家族と面談などを通じて今までの生活の様子や要望、困りごとなどをしっかり把握した上でケアの内容を提案・相談し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談時には困っている事などを聞いて、必要に応じて適宜他の制度や他の施設の説明や紹介を行い、選択できるように情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたり、楽しみを味わうよう心掛けている。また、行事・レクリエーションを通じて互いが笑顔で楽しく過ごせる関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今月のご様子のお手紙に、日々の生活の事や行事の写真を載せて毎月ご家族にお送りしている。季節の衣類の交換や物品の持参をお願いしたり、通院を依頼しており、皆さま快く引き受けてくださり、面会にも来てくださっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時には個々の部屋でお茶を出し、ゆっくりとお話ができるように支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、知人の来訪がある他、家族の協力を得ての外出・外食・墓参り・法事・葬儀・結婚式への出席等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常に職員が会話の架け橋となり、会話が弾むように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後は入院先や入居先に訪問している。また、退所者のご家族の相談等も継続して受け付けている。退所時はホームで撮った写真等をふきのとうでの生活の記念として渡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・ご家族の意見を聞いて希望に沿ったケアができるよう目指している。	日常の関わりの中での利用者の様子、言動、表情等を介護記録に記録し、思いや意向の把握をしている。意思が伝えられない方でも何らかのサインを見逃さない様になっている。困難な場合は家族から情報を得たり、職員間で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族等から情報を得て健康状態や今までの馴染みの生活、利用していたサービス等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックのチェックを行い、健康状態の変化に対してはすぐ訪問看護師、かかりつけ医に相談し指示を仰ぎその都度対応している。一人ひとりの過ごし方については把握はできているが、活動量が増やせていない。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心に、カンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の状況に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思い、主治医や訪問看護師、作業療法士の意見を参考にして、計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、月1回のカンファレンスを開催して話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状況の変化や要望に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録に記入して、その記録に基づいて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度相談、検討を行い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加した際、自治会長をはじめ皆さんから親切に対応していただいている。2018年より大竹市のコーラスグループの定期訪問、フラダンスグループの訪問も開始した。訪問美容も皆さんが楽しみにされている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	8名の方が、希望の訪問医療を受けておられる。1名の方は以前からのかかりつけ医が往診に来られる。2018年からは地域の訪問歯科診療も受けている。	基本的には、本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としており、入居後、特に「かかりつけ医」として医療機関の指定がない場合は、本人および家族と相談し同意を得た上で、協力医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医は、2週間に1回の往診があり、訪問歯科の必要な利用者には適時往診があり、他科受診は家族対応をお願いしているが、無理な場合は職員が対応している。病状の変化や治療方針の変更があった場合や、体調不良による臨時受診後は、受診後速やかに家族に電話で報告している。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションゆうあいと連携し、毎週訪問にて健康チェックをしている。24時間困った事があれば看護師に連絡・相談ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の地域医療連携室や相談員にサマリーを送り情報を共有している。退院時もカンファレンスに出席したり、相談や情報提供を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化指針の説明をし同意を得ている。必要に応じて終末期ケアにも取り組んでいきたい。	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」に基づいて事業所で出来る対応について、本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、その都度、家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等と医療機関や他施設への移設、看取り等について話し合い、方針を決めて共有して、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成している。事故報告・ヒヤリハット報告を行い、皆で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域と防災協定を結んでいる。緊急時対応マニュアルを作成し年2回の避難訓練を行っている。緊急時の食料やお水なども備蓄している。	年2回昼・夜間を想定して実施しており、内1回は消防署の協力を得て火災・災害(地震・土石流)の避難訓練(通報、避難誘導、消火器使用、怪我を想定した応急処置訓練等)を行っている。非常用食品は備蓄できている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを損なわないように、排泄時・入浴時などの声掛けや対応などについても注意しているが、できていないときもみられる。	プライバシー保護マニュアルに基づいて法人研修をしている他、接遇研修に参加し、丁寧な挨拶や言葉遣いを学んでいる。居室へは必ずノックし、声をかけてから入室している。又、排泄や入浴時の言葉かけには、特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症で困難な場合もあるが、選択や自己決定がしやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いや気分を尊重しその方のペースに合わせて対応している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容や衣服に気を使っている。2ヶ月に1回訪問美容が来て、カット・毛染めなど本人や家族の希望に沿っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事食以外にもおでんや焼肉パーティーを開催しておりノンアルコールビール、カクテルなどお出しして喜ばれている。	3食とも事業所で作り、利用者は下ごしらえ、味見、盛り付け、台拭き、下膳等、出来る事を職員と一緒にしている。御飯やパン食等の食事もあるようにしている。、利用者の状態に合わせて食品を食べやすいように形態の工夫や自助具を使う等して、一人で食べる事が出来る様になっている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食材の話を楽しみながら食事を摂って	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は毎日チェックしている。嚥下の状態に合わせて必要に応じて、一口サイズにカットしたり、水分にはとろみをつけたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケア・義歯洗浄を行っている。夕食後は義歯消毒を行っている。必要に応じて歯科往診をしてもらい、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握している。できるだけ自由に自分でトイレで排泄をしていただいているが、夕方には全員のトイレ誘導を行い清潔を維持している。	お一人おひとりの排泄パターンを把握し、自立排泄にむけた支援をしており、適宜、見直しもしている。声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。尊厳に十分配慮し、最期まで自力排泄出来る様に支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝の体操に参加していただき、水分をしっかり摂っている。必要に応じて、医師と相談しながら下剤を使用するなど、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	色々な入浴剤を入れたり、個々の好みやペースに応じて入浴を楽しめるよう働きかけている。	利用者の体調に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴等に対応している。入浴をしたくない人には無理強いをせず、言葉かけの工夫や時間の変更、曜日の変更等、個々に応じた入浴支援をしている。入浴は、週2回のパターンで、午前中にゆっくりと入浴出来るよう支援している。会話を楽しんだり、入浴剤を入れて香りを楽しむ等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせて、日中臥床される方は臥床時間を設け夜間は十分な睡眠が撮れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診ノートを作成しており、往診時先生からの連絡や、薬剤師のメッセージや薬の注意事項などを共有している。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日午後からは、言葉遊びや・歌・ゲームなどのレクリエーションを楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	少人数ずつ、近くへ散歩し外の空気を吸っていただいている。地域の行事に参加していただいたり、外食なども楽しんでもらっている。	事業所周辺の散歩で、外気浴、日光浴をしている。又、地域の行事は案内があれば一緒に出かけたり、敬老会も家族に代わり職員が同伴し参加している。ドライブでバラ園や紅葉狩りで紅葉谷へ出かけたり、ファミリーレストラン・うどん店・回転寿司店・ラーメン店に外食に出かけている。宮島のサービスエリアにドライブに行き花見をして、食事を楽しんでいる。家族の協力を得て、買物や外出・外食・法事・結婚式に出かける等、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	地域の夏祭りなどでは、お金を持って自分でジュースなどを買い、支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話など掛けたいときは、必要に応じて対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者同士が不快にならないようテーブルの配置交換を行っている。季節の花をテーブルに飾っている。	リビングは広く、大きなガラス窓からの自然光で明るい。窓からは、周辺の山々や、住宅や桜の樹木が見えて、季節を感じる事が出来る。テレビ・テーブル・椅子・ソファを配置し、季節の花やおしゃれで落ち着いた調度品が飾ってある。リビングのそばにはキッチンがあり、炊飯の匂いや盛り付けの様子が見え、生活感を感じる事が出来る。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性を考え席の配慮をしている。 ゆっくり過ごしたり談話ができるように、長椅子やソファを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真や仏壇や家具など持ち込んでいただいている。	利用者は、テレビ・筆筒・絵画・家族写真・椅子・仏壇・化粧品・自作の作品・カレンダー・アルバム等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・浴室にはわかりやすいように表記している。 手すりなどを設置して、安全安心な暮らしができるように工夫している。		

グループホーム ふきのとう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ふきのとう

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふきのとう

作成日 令和 1 年 9 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員のミーティングを2ヶ月に1回必ず行う	活発な意見交換、情報共有を行う。職員の学びを促し利用者へのケアに反映する	日程を決め、休みの職員にも残業を付けてなるべく参加していただく	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。